

心を一つに

奉仕＝キリストの生涯 ～相手を理解すること～ ピリピ 2:1～5

■ 共感する力

人生の中で良かった事、嬉しかった事を3つあげてもらいました。人の嬉しい体験を聞く共感出来ると思います。人間だけが相手の事を自分の事のように理解出来る共感する力を持っているのです。なぜこの人はこのような状況にいるのか。以外と本人より周りの方がよく理解できている事は多々あります。私達は愛されていても、その愛を疑い、愛されていないのではないかと思ったり、色々な痛みを感じて育っていきます。最初から教会にいても神様がわからなくなってしまふ事もあります。そして又わかる様になります。人それぞれ色々なスタイルがありますが、神様は1人1人の人生に向き合い関わっておられます。試練の中になると、何故こんな事が起きるのかという事がありますが、そこを通る事で、悪いものがなくなり、良い実だけが残っていくのです。試練を乗り越えれば、奉仕に進む事が出来るのです。

■ 奉仕とは何か。

奉仕とはイエスキリストの生涯そのものです。イエス様は訓練を乗り越えて、立派な人になる為に十字架にかかったわけではありません。確かに荒野で40日40夜断食して訓練を通りました。パリサイ人からの誘惑にも合いましたが、既に完成していました。別に訓練の為にここを通ったのではなく、試されたのではなく、痛みを負われたのです。私達とイエス様はここが違います。でも出来れば私達もピリピ2章で、イエス様の生涯そのものの奉仕の領域に入っていきたいのです。ついさっきまでは試練を通して隣の人から学んでいました。でも少し次のステップに進みたいのです。パウロ自身は自分が裏切ったのに愛された事をよく知っていました。今日私達もう一度感じたいのです。私達の人生も神様が回復してくれました。本当はそれだけで十分なのです。私達の人生は多くの人の犠牲の上に立て回復させられています。今、聖書の御言葉と照らし合わせると、私達の人生がどれほどずれて間違っていたか、又、沢山の人を傷つけてきたかわかります。しかし、1回赦されてきれいになると忘れしまいます。まるで、ダイエットを1回達成すると忘れてしまい、リバウンドしまい、前よりひどくなっている様な状況です。ピリピへの手紙にも犬は自分が吐いたものの中に戻る。自分が気持ち悪くて吐き捨てたものの中にあの頃も良かったと戻って行く心がある事が書かれています。これが出エジプトした民の姿です。でも、ここから卒業しないとイケないのです。上手くいかない事で悩むのではなく、投獄されても喜んで賞賛していたパウロの様にしたいのです。パウロは散々イエス様の事を邪魔したのに、赦されたから十字架の愛がわかりました。私達は自分にはしてもらったのにすべき事を忘れてしまっています。パウロは投獄されて思い出し、獄中から励ましています。世話をする為に来ていた人が病気になる程劣悪な環境でむち打たれてもパウロは恨まなかったのです。だから扉が開いた時に皆そこにいました。看守達は牢が開いてしまったので自害しようとしたが、囚人達が逃げなかった事で救いが起こりました。獄中で主イエスを信じなさいそうすればあなたもあなたの家族も救われます。というこの素晴らしい真理が実現したのです。

■ 神様と心を一つにする

「キリストにあって励ましがあがり、愛の慰めがあり、御霊のまじわりがあり、愛情と憐れみがあるなら、私の喜びが満たされるように、あなた方は一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。」(ピリピ 21,2)

自分が本当に赦された罪人である事を知って、愛しているでしょうか。

パウロは自分を喜ばせない人を愛していきました。又、獄中という喜ばない状況の中で喜びがあると言いました。私達は最初は喜んで直ぐに不満を持ってしまふ弱さがあります。又、人が集まると意見の違いから対立が起きたりしますが、心を一つにしないとイケません。奉仕は神様と心を一つにする事です。もし一つなら、隣の人を見て嫌な気持ちになったりしません。嫌な思いになるのは神様と心が二つだからです。不安になるのも同じです。神様と心一つならどんな状況にあっても満ち足りる事が出来ます。これが判断基準です。

■ 愛の奉仕＝自分の事だけではなく、他の人の事も顧みる

ある有名な俳優さんは2週間歯を磨かなかつたり、1ヶ月間風呂に入らない生活を送ったり、1ヶ月10kgも太ったり、痩せたりするそうです。でも、この情報だけを聞くと、イメージが悪くなってしましますが、実は役作りの為にそうです。私達は知り得た最初の情報だけで判断してしまいます。自分がその人のどの側面を見るかで違ってくるのです。私達は人の事は良くわかりますが、自分の事は案外わかっていないのです。忘れていた過去の事に基いて判断してい

る事が多いのです。どうやって物事を見るかで変わります。奉仕は、自己中心や虚栄からする事なく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思う事。自分の事だけではなく、他の人の事も顧みる事です。パウロは訓練を耐え抜く為に獄中にいたわけではありません。神様にどれほど愛されているかを思い出したのです。今どんな状況の中にあつたとしてもそれは訓練ではなく、一歩進んで喜びとしていきましょう。試練は自分が変わる事で解決されていきます。愛の奉仕は素晴らしい神の奇跡が起こります。人間的には解決出来ない事が奇跡的に起こるのです。奉仕はキリストの十字架です。それは教会で働く事が奉仕なのではなく、私達の人生、全てが奉仕なのです。

そして、奉仕は理解する事です。側面だけ見て、相手の事を理解せずに行ってしまう事は自己中心です。パウロはローマ兵や獄舎にいる人の事を理解しました。「あなたの方の間ではそのような心構えていなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」(ピリピ 2:5)

イエス様は命がけて私達を理解してくれました。そして、愛した弟子にも裏切られ、十字架に向かわれました。ユダヤ人の為にきたにも関わらず、ののしってつばをかけて十字架にかけたのはユダヤ人でした。ローマの法律でかけたのであって、ローマ人が十字架にかけたものではありません。私達のも同じです。内側で恐ろしい心を持っています。しかし、それを神様は理解し、私達の罪をお赦しになるために、ひとり子であるイエスキリストをこの地上に遣わされました。私達は理解され赦されました。だから私達はわかってあげられるのです。パウロが牢獄でわかってあげられたのはパウロとしての人生があつたからでした。だから牢獄で自分の立場ではなく、彼らの立場で賞賛しました。わかってもらったので、かれらはローマ兵の気持ちが変わりました。だから、皆牢獄に留まっていた、賞賛され、ローマ兵が沢山救われたからピリピに教会が出来ました。これは素晴らしい事です。

■ 奉仕とは相手を理解する事。

あなたの周りにいるあなたが救えない人を今日理解し、赦しましょう。これが最初の奉仕です。教会で働く事だけが奉仕ではありません。はじめて教会に来た人が喜ぶ為に愛を感じるために食事があがり、掃除があがり、自分を理解してくれた人がいる事を覚え、自分のことだけではなく隣にいる人の気持ちを理解しましょう。底辺の底辺を生きたイエス様の事を思い出しましょう。彼は私達が何度裏切っても、そうしてしまつた気持ちが変わると理解してくれました。そして、もう私はあなたの痛みを背負うから、そこから這い出せと言ってくれました。私の心の中を作り変えてくれた事を思い出しましょう。

最後に…

きれいになると又汚い所に戻りたくありません。しかし、パウロはもう一度ローマに戻って行きました。自分の心配はもう終わりにして、私達も自分のローマに戻り、今度は理解してあげる番です。愛する人になる為の訓練を通り、そこを抜けてパウロの様に獄舎の中にも喜び賞賛しましょう。私達はこうでなければいけないというルールを作って人を裁いて生きやすいです。人生を妨害するものから守られていると思ってルールを作って安心しようと思ふ。でも全てを解決するのは愛しかありません。イエス様は真剣に私に向き合ってくれました。あなたの心の中にある自己中心を顧みて下さい。

今本当に隣人を大切に、人を愛していますか。
本当にその人の事を思って良い事をしていてでしょうか。
自分の為に判断していないでしょうか。

1人1人は本当に神様に愛されています。心を頑なにせず、次のステップに向かって自分の事だけではなく、他者の事を理解しましょう。あなたはイエス様を裏切って、傷つけたのに赦されました。私達はこのままで良いはずがありません。あなたの愛を教えてくださいと祈っていきましょう。家族がまだ救われていないなら、何故と思うのではなく、救ってくださいと祈りましょう。

大切なほどこを見ているかです。見方を変えて、相手を理解する事を選びましょう。私達の日線が変えられますように。

(要約者: 日名陽子)

(2021年10月17日)